

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第5回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成21年8月27日(木) 午後3時30分～午後5時25分	
会場	練馬区役所本庁11階 1102会議室	
出席者	委員	村松賢一、荻部一夫、片柳博文、山口義一、加藤芳和、武井和幸、井上康子、武者裕子、三浦秀樹、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	谷川拓也 指導主事

### 部長

前回、表現力の育成で中心になる柱について議論していただいた。後ほど事務局から提案がある。今日は、柱になる項目を再確認することであり、今回はそれぞれの柱に基づいて各学習段階・学習期における項目を洗い出していきたいと思う。

### アドバイザー

回を重ねて表現力についての理解も深まってきた。だんだん具体的に何をどの段階で伸ばし深めるかの議論をしているが、時々原点に戻って考えることも必要。

原点とは子どもたちが思いや考えを自分の言葉できちんと伝えることができるようにしたいという願いだ。思いを伝えるというのはスピーチの場面などをイメージすると思うが、考えを伝えるということになると一方的な場ではなく話し合い、討論のような交流の場で求められる力。よって思いや気持ちを表現する場、意見や考えを発表して交流する場として具体的にどのようなものを用意すればよいか広げて考えていくことも必要と考える。

### 事務局

資料を2点配らせていただいた。1点目は前回の議論でホワイトボードにまとめたものを5つの項目に合わせてみたもの。2点目は前回の要点記録。発言内容をご確認いただきたい。

今日は重視する5つの指導項目がこれでいいかということ。例えば「言語力」「語い力」という言葉が出ていたがどちらがよいのか。また「言語スキル」というものがこれらのなかに含まれるのか。

2つ目の柱は「組み立てる力」とし付箋にあった「目的意識」「論理性」「考えを集め生かす力」を中に入れてある。

次は「調べる力」を「情報収集力」という言葉に変え柱とした。

次も「表現に関するスキル」を「表現する技能に関すること」としその中に別枠で「ICT」と項目立てている。この柱には「デザイン」「アイコンタクト」「表情」「声」などの言葉が含まれている。

最後は「態度・相手意識」ということで「楽しく」「集団」などの言葉を含んでいる。柱の順番は左からより教科に近いものとし右に行くほど特別活動や総合的な学習の時間、道徳に近いものとして並べてみた。今日はこの5本柱について検討いただきたい。

重視する指導項目								
第Ⅰ期	語い力 言語	組み立てる力	情報収集力 調べる力	表現する技能に関する事	態度・相手意識			
	言語スキル	①相手に応じて話す事柄を順序だて話す。 ②理由や事例をあげながら筋道立てて話をすること。	①尋ねたり応答したりすること。 ②友達の話を聞くこと。 ③要点などメモを取りながら話を聞く。	①自分が体験したことなどについて話すること。 ②丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気をつけて話をする。	①自分の意見を大切にする。 ②協力して話し合いに参加する。 ③友達の考えを認める。 ④どんな意見も活かそうとする。			
		①収集した知識や情報を関係付ける。	①材料を交流を通して集め整理すること。	①身近な話題についてスピーチすること。  I C T の 活 用  ①資料や機器などを効果的に活用しながら説得力のある話をする。	①お互いの個性を認め合う。			
第Ⅲ期	①中心部分と付加的な部分の関係に注意したり、論理的な構成や展開を考えたりして話す。	①材料を多様な方法で集め整理すること。		①相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合う。	目的意識、構成力 論理性 考えを集め生かす力	素直に感じる力	声、表情アイコンタクト わかりやすさ デザイン、視覚	楽しく、集団 素直に、経験 楽しく

**部長**

今の説明で5本柱の上の言葉や文言も含め質問はあるか。ご意見を伺いたい。

**委員**

「語い力」を3期に分けた場合の指導はどれも同じようなものになると思う。本来指導して

伸びるものではなく、子どもを取り巻く言語環境が豊かになるのに伴い増していくもので、活動例を考えるのは難しい。「語い力」を育てる一番は読み物だと思うが、それだと段階によって推薦図書を挙げるようで不安だ。

委員

「語い力」のなかに言語事項が入るとして、段階的に敬語だとか言ったものを指導、分類することは可能か。

委員

可能だが言語事項として取り上げると、ほとんどが言語スキルで、欄外の「表情」などが非言語スキルということになるので大きくなりすぎると思うが。

部長

前回表現力といった時に言語に関することは外せないという話だったが、どういう形で載せていくのがよいか。

委員

事務局では「語い力」をどのように定義したのか。

事務局

前回の意見のなかから言葉の数や言語の広がりというイメージでとらえていた。ただそれが「語い力」なのか「言語力」なのかについては明確ではない。

委員

語い力そのものは教科でつけてもらい、その他の部会で提案する力をつけることで語い力もうまく使いこなせるという考えではいけないか。

委員

やっていって育つのが「語い力」だというのは少し違うと思っている。

部長

会議のなかで語いという言葉が出たのは、子どもたちが物を言う時に単語で会話するという現状から、いろいろな言葉を巧みに使って人に伝えさせたいということだった。「語い力」といわれると確かに形が見えない。

委員

指導事項・言語事項という意味では段階はあるが、これを指導したら「語い力」がつくというものはなく、積み重なっていくものだと思う。

**委員**

自分のことを語る語い、相手も含めて表現する語い力、最終的に第三者のことを表現するという自分の周辺から対象が広がっていくことによる語いの発達、語い力と語いの増え方というのではないのか。

**委員**

2者3者というよりは私的な部分から社会的な部分には変わっていくと思う。

**委員**

自分のことを表現する語いに「嬉しい」とかあるが、社会現象を表すのに「嬉しい」というのではないが。

**委員**

言語学的な発達段階では名詞から始まり動詞、形容詞、副詞、形容動詞というように幼児期に発達していく。そういう言葉が複雑になり、社会性を帯びていけば広がっていくとは思いますがⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期での発達段階というのではないと思う。言語環境が広がってそれを言葉に置き換えられれば語い力が増えていくと思う。

**委員**

語いそのものに発達段階がなく全方向的に広がっていくものだとすれば「語い力」というのを看板にするのはふさわしくないという話になる。

**委員**

作文で子どもたちが感情を表す時に「楽しかった」「面白かった」という言葉を使わせないようにしている。そのかわりどんなことをしたか、何を話したかと聞くと「友だちと抱き合った」などと答える。語いがないから表現しないのではなく行動や会話で感情を表すということを知らないので、よく思い出してそのまま書けばもっとよく伝わるということを指導している。

子どもが単語で会話する現状は語い力の問題以外のものと思うので柱として「語い」「語い力」というのは少し違うかと思う。

**部長**

同感だ。低学年などは感覚的な言葉が多いが年齢とともに情景描写ができるようになる。事実をきちんと伝えさらに感情を加えたり、自分中心の言葉から相手を意識した言葉に変えていくなど発達段階に合わせて、書き表せるといいと思う。「言語事項」という言葉の方がいいか。

**委員**

「言語事項」というイメージは文法のことになる。

**アドバイザー**

学校教育では小学校を卒業する時にどれくらいの語数を理解できる、使えるという目安はあ

るのか。

**委員**

漢字ではあるが語数というのではない。

**アドバイザー**

外国人が日本語を習う場合、1級、2級、3級で習得する語数を数で示せる。常識的に中学生だったらこれぐらいの言葉は使ってほしいというのはあっても、語数として示すのは難しいか。教科書に出てくる言葉は当然理解し、使えなければならないという目安があるだろうが、どこにもないのであれば思い切って練馬区でそういう特別な語い力パワーアップのプログラムを提案するのもいいと思う。特別目新しい手法はないと思うがI期にはこのぐらいのところまでとか、先ほど話の出た自分中心から相手にいって次に社会にみたいな分け方でも、大まかに示せるのではないか。保護者にも喜ばれ、安心を与えると思う。

また、先ほど事実を表現して考えや感情を伝えるという話があり私も重要なことと考えるが、一方で「楽しかった」を「心地よかった」、「すっきりした」に言い換えるなど、言葉を知っていることも大事だ。語いを増やすという意味でこの柱は重要と考える。

**部長**

表現力といった時「語い力」は非常に重要ということが前回の議論にも出てきているので、とりあえずこの言葉で置いておくがよいか。

**委員**

もし「語い力」という言葉を使うなら、部会として内容をもっと定義・明確化する必要がある。「楽しい」だけではなく条件や状態を書けることも「語い力」に含まれ、いろいろな言葉の種類を知っていることも含まれるということで、もう少し内容を詰めて残さざるを得ないというのが私の見解だ。

**委員**

先ほど「語い力」はいろいろな力をつけることで一緒に育っていくもので、柱として立てる必要はないと発言したが、皆さんの話を聞き「語い力」ではなく違った言い方で言葉の力が付くものが一本あればいいと思った。

**アドバイザー**

理科とか数学・算数の教科独特の語いも「語い力」に入るのか。

**委員**

ここでいう表現力は教科でも総合の時間でも道徳でも総合的にとらえているので専門用語も入ると考えた方がいいと思う。

**委員**

「語い力」は国語でいいと思う。数学で証明をする時も専門用語を知っているかということよりも国語の力でどう表現するかがベースと考える。これを全教科にするのはちょっと違うと思う。私は「語い力」を単語の数というより言葉の選択力ととらえている。証明する時にどの言葉を使えば分るか選び出すこと。

**部長**

「語い力」という名前の付け方に違和感があり「言語力」くらいでよいか。「言語力」では結構大きくなるが…。

**委員**

表現力のベースは国語だと思うのでそれを置いておかないとおかしくなってしまう。

**アドバイザー**

全教科とか道徳という話が出たので確認で伺ったが私も「語い」は国語ととらえてよいと思う。

**委員**

名前は別として、内容としては、単語の数を増やすこと、ちょうどよい言葉を選択する力。私が先ほど話した（事実を伝え感情を表す）ことは4番目の柱の「表現に関する技能」に入れていいのか「語い力」と言っている方に入るか分からないが、内容をもう少し明らかにし一番良い言葉を探すのがよい。

**部長**

「国語力」「言語力」と広げると「組み立てる力」「情報収集力」などにも関係してくる。

**委員**

事務局がこの柱は教科、この柱は総合、道徳に近いという分け方をし、五つの柱は同列に並んではいるが同列ではないということであれば混乱する…。

**事務局**

重視する指導項目ということで挙げているが、とりあえず全学習期を通じて育てる力として一旦置き、次の項目を検討していただきたい。

**部長**

外せない指導項目として共通認識いただき、他の四つの柱に議論を移したい。「組み立てる力」は論理的な思考を意識しての項目だが、これについてはどうか。

特に無ければ「情報収集力」についてはどうか。

**委員**

内容①②の応答したり聞くことを5本目の柱「態度・相手意識」に入れなかった理由や違いは何かあるか。

**事務局**

大きな違いはないが大切にしている等の心の部分を一番右に強調し、左は単なる行動とした。

**委員**

情報収集のためという意味ではないのか。

**事務局**

1年生は聞かれたら答える、友達の話を生懸命聞く。3、4年生になったらメモを取りながら聞かせたいというようなイメージでI期に挙げてみた。

**委員**

友達に「きく」というのはただ話していることを「聞く」のではなく、情報を集めるために意図的に「聴く」ということか。

**アドバイザー**

表現力を前提にすれば、何かを表現するために「聴く」だが。

**事務局**

1年生にとっては表現力を意識した「聴く」ではなく、最初の段階として人の話をしっかり「聞く」ことからスタートするとイメージした。

**委員**

1年生では友達が話している時には静かに「聞く」というところから、中学3年では自分が表現することに必要な材料を集めるため意図的に「聴く」という発達段階を踏まえた「きく」ということで理解する。

**部長**

一番下の「素直に感じる力」はここに入るのか。

**アドバイザー**

情報を集めて発表する、素直に感じて感動をそのまま発表するという2つの異なる表現活動がある。情報収集にしばらく「素直に感じる力」は入りにくいだが、これはこれで大事だという意見ではなかったか。

**委員**

「情報収集力」「調べる力」以外に「感じる力」も含めた一言が何かあるといい。

委員

美術ではきれいなものを見て、風景の情報を知覚的に素直に感じる力は「情報収集」だが。

委員

音楽にもそういった面はあるのか。

委員

いろいろな曲に対することでいろいろな知識をという意味ではある。ただ曲一つ取ってもそういうことを考え、情景を思い浮かべながらということでは少し広がりすぎてしまう。

委員

感受…。

アドバイザー

論理性と感性の両方が必要ということ。

委員

国語では情報の取捨選択をするという観点から情報収集力と感性を育てるという部分は異なり、一緒にしてしまうことに違和感を覚える。

委員

非常に芸術的な部分なので教科でやり、ここではやらなくていいのでは。

部長

芸術教科だけでなくプレゼンなどでも問題意識や思いがなければ人に伝わらないので、これも含めた「情報収集力」と考えた方がいいのではないか。

生活科が生まれた背景に気づく力というのがあり、小さい時から豊かな感受性をもたせ感動したり気づいたり不思議に思うということがないと、あらゆる教科で学びそのものが成り立たないという考えによるもの。学習の原点という意味ですべてのことに関わってくると思う。

委員

情報という言葉を抜くのはどうか。

部長

「収集する力」「収集」「調べる力」…。「収集力」でどうか。

アドバイザー

「感じる力」も含めるということで、次に行った方がよい。

部長

では次の「表現する技能に関すること」にいけます。

委員

①はどのあたりを技能と考えているのか。

アドバイザー

1年生くらいが自分の体験したことを話すのに必要な技術があるということではないか。

委員

表現の中身というより題材（話の中身）、またはスピーチをするという感じを受ける。

委員

低学年なら自分のことを話す時に順序よく話すというようなことなのか。

委員

体験したことをどう受け止めたかというような内容的な深まりを指すのか。順序よくということであれば「組み立てる力」の方になると思うが。

部長

前の議論で「表現する技能に関すること」というのは下に書いてある「表情」「アイコンタクト」「デザイン」など言語以外のものを補助的に使うということだった。例えばプレゼンの際に絵、映像、ICT機器を活用しながら表現するという。書くとすれば「相手の目を見て話す」「相槌を打って話を聞く」などがよいか。

委員

「相手の目を見て話す」などは「態度・相手意識」に入れてはどうか。もっと絞って「絵で表す」、「音を出す」というように。だんだん増えていることを説明するのに言葉ではなく折れ線グラフを見せて「こうなっている。」というような…。

委員

技能で考えれば歌を歌ったり劇をやったりということが年を追うごとに高度になっていくという感じの内容で書いていくということか。

委員

「表現する技能」にはICTも絵も、図や表、音楽もあり当然言語でやることも含まれ、いくつかの項目に分かれると思うがすべて混ざっていると分かりにくくなると思う。

委員

言葉以外の表現もあって、より豊かな表現ができる力を育てていこうと考え「表現する技能

に関すること」ではなく「表現に関する技能」。

#### アドバイザー

話す速度、聞こえる声を出すなど基礎的な表現のベースになるものと絵やICTを利用する活用的な部分の2つがある。音楽の場合は言いたいことを音楽で表現するのか。

#### 委員

情報収集した内容や伝えたいテーマを劇にしたり音楽でやるというイメージだ。

#### アドバイザー

選択肢があり表現形式を選べる力というのはいいと思う。中学生くらいならラジオ番組を作るなどは面白い表現力をつけることとして非常に意味があると思う。

#### 部長

文字の配置や色で視覚的に訴えるという力もある。キャッチコピーや一言で内容を伝える電車の吊り広告のようなものも。話を聞いてもらう時や手紙などを読んでもらうときにも最初の入り口でうまく心をつかむとその後がスムーズになり、そういうことも表現力の一部ではないかと思う。

#### 委員

分かりやすく伝えればいだけではなく、見ていて楽しい面白いという部分で美術や音楽が入ってくるといいと思う。

#### 部長

それでは最後の「態度・相手意識」に行く。

#### 委員

この内容としては「相手の目を見て聞く」とか「アイコンタクト」などと思う。

#### アドバイザー

ここに書いてある①や②や④と今出ている意見は違うが、この枠組みは何を狙っているのか。

#### 事務局

特活的な内容なので以前いただいた特活の資料から、聞いたり話したりの内容を引っ張ってきた。皆さんからの「楽しく」「集団で」などのキーワードを具体的にするとこういうことかと考えた。

#### 委員

最終的には相互交流、討議・討論を目指すと思うが、その手前のよりよく伝えるために相手の立場や状態を考えたり、自分がどのような態度を取るべきかという意味で「表情」「アイコン

タクト」という内容でいいのではないか。

**アドバイザー**

表現の場では互いの個性や表現を認め合う情意的な要素は大切だが、柱を立ててやるとどう中身が整理されるかと少し心配だ。

左四つの柱の内容で十分と考えるなら右の柱はいらないし、技術や論理に偏っていると表現を温かく受け止め合うというような内容のものが欲しければ右の柱は必要ということになる。

**委員**

I期の①～④はどうかと思うが、II期・III期の①は情意的なものとして発達段階に応じて育ててやっていいのではないかと思う。

**委員**

ここでいう「態度」とは表現する側の態度と考えてよいか。I期の①～④はどちらかという聞き手の態度であり、相互交流については置いておくとのことなので表現する側の態度に絞って考えていった方がよい。

**部長**

中学の先生に表現する側の態度として今の中学生に足りないところや課題を具体的にお聞きしたい。

**委員**

度胸がない。

**アドバイザー**

授業を見せてもらおうと、伝えたいという気持ちが感じられない。仕方なくやっているのでもじもじしている。総じて中学生に見受けられるが表現に関する技能のもっと手前の心の持ちよう・態度ということだと思う。

**委員**

自分を出すのをすごく嫌がる。歌でも信頼関係のある仲がいいクラスだと簡単に歌えるが、ぎくしゃくしているクラスだとお互いけん制し合って、歌えるのに遠慮していると感じる。

**委員**

何かを発表し、上手く伝えることで沢山の友だちと仲良くしたいとか、信頼されたい、すごいお前と言われたいというのがなくすごくドライ。かなり難しいとは思いますが、この能力で将来どんないいことがあるかを根本的に理解させないと一生懸命にならないと思う。

**アドバイザー**

静岡のある中学校では1人ずつがテーマをもって1年かけて卒業発表する。先生も1年がか

りで指導するそうで子どもたちには自信もつき、先生との信頼関係もすごく深まる。そこまで面倒を見てもらえば子どもたちの発表する態度もおのずと変わるし、聞いてほしいという気持ちも出てくると思う。

**部長**

そういう意味で前の四つの柱だけでは表現力の根本にあたる部分が足りない。アドバイザーの言葉を借りれば自分探しという中で表現という行為が出てくることをしっかり押さえて指導するべきという点で、最後の柱を出したことはいいのではないかと思う。

**委員**

項目として表現しようとする意欲とか態度というようにしてはどうか。

**部長**

スキルのなものを指導することでその子自身の気持ちが変わることも現実にあると思うので情意的なものやスキルのなもの、自信を持てるような意欲付けを含めてここに入れたいと思う。五つの項目の言葉を今日固めてしまった方がいいか。

**事務局**

固めてもらえれば助かる。「語い力」が9年間通して育む力とすれば「組み立てる力」「調べる力・収集力」「表現に関する技能」「表現しようとする意欲・態度」の四つになるが。

**部長**

「語い力」は全体を包括的にする根底の能力ととらえ残り四つの柱でよいか。他に加えた方がいい柱が何かあるか。

**委員**

引き出してやる力は相互交流はなしということでやめたが、周りがしゃべっていいと思わせる雰囲気というものもあるのではないか。

**アドバイザー**

それは一番右の柱に入ることで、みんなで作っていくことは大事なことと思う。

**委員**

授業を見ていると、何か一言「よく頑張って最後まで言えましたね」など言ってあげればいいのと思う場面はよくある。他の子も安心感が持てると思うし、きめ細かにやっていかないと教室の中で表現できない子が全体の場で表現することは難しい。

**委員**

最後の「(表現したいという)意欲・態度」だけでは発達段階としてやっていくのは難しいと思うので、相手意識というものも入れておいた方がよいと思う。

委員

素朴な疑問だが「語い力」のところで国語以外の総合の時間などに読書をさせるというのは、親の立場としては嬉しいのだがどうなのか。

委員

総合的な学習の時間としてやるというのはダメですね。

委員

「語い力」を別扱いにするというのがピンとこないのだが、全体に関わるということか。

事務局

報告書にする際どうしても区切れないものや繰り返しやるものについては一番右に9年間通してやることとして入れる。そこに引っ張り出しておけば読書などで言葉を増やすとか選択する力を育むということを盛り込むのは可能になる。

アドバイザー

もう一つ気になるのはⅠ～Ⅲ期それぞれの主題があれば「語い力」もそれに照らして考えていきやすいのだが…。

委員

「練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針」のなかで発達の特徴と指導の重点がⅠ～Ⅲ期に分かれて載っているなのでこの辺とも関連して主題を…。

部長

では次回までに事務局と副部長、私の3人で各期の主題（目指す子どもの姿、どういう表現力をつけてもらいたいかなど）を叩き台として作ってくる。それぞれで考えるのもいいことだとは思いますが時間的にまとめるのは難しいと思うので3人が提案したものをこの場で揉んでもらいたい。要望・意見など連絡いただければ事前に参考とさせていただきます。

次回は各期の主題の提案と今日話した五つの柱について文言その他、再度整理して提案する。

（第6回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認）

9月28日（月） 16:00～

場所未定（後日連絡）